

【佳作】

水のカリスマ性

宮城県仙台二華中学校

二年 太田彩愛

水は私たちにとってどんな存在か。炊事、洗濯、掃除、入浴、お手洗など人間にとって必要不可欠な存在。動植物が生命を維持するのに欠かせない存在。今まで私はそれくらいしか思いつかなかったし、水があることが当たり前すぎて水について考えることもなかった。しかし、夏休みに行ったシンガポールでの旅行をきっかけに、水についての考えが深まり、水の新しい価値も知った。

まず私は、シンガポールの空港でレインボルテックスという巨大な屋内の滝を見た。屋内の人工滝では高さが世界一の滝と言われていて、地面に轟くような音と力強い水しぶきを上げて流れる巨大滝は圧倒的な迫力があつた。夜にはこの滝で光と音のショーが行われて、プロジェクションマッピングや音響、滝の周りに生い茂っている木々などが幻想的な空間を造っていた。日本にあるような山の中の自然的な滝というよりは、様々な技術が駆使された芸術的な滝という感じだった。その後も度々「芸術としての水」を目にする機会があつた。もちろんマライオンもその一つだし、いたるところに噴水があつたり、ショッピングモールの建物内に運河や空港にあつたような滝があつたりした。中でも、スペクトラという夜の光と水のショーが印象的だった。壮大なオーケストラのサウンドをバックに、豪快な噴水や色とりどりのレーザー、プロジェクションマッピングなど様々な最新技術を駆使して表現されていた。とても神秘的で、まるで魔法かのような演出にうっとりしてしまった。正直、ショーなんて見て終わりだと思っていた私が、目を離せなくなるほど圧巻で大迫力だった。

このように、シンガポールでは人々を楽しませるために、たくさんのお

金や労力をかけて工夫が凝らされた「芸術としての水」があらゆるところにあった。水は生活に使うためだけではなく、観る人を惹きつけ、癒し、人々を魅了する力も持っていることに気がついた。水は動植物の体だけでなく、心までも潤してくれるという価値があると思った。

こうして私は水の新しい価値にも気づいたが、現在世界中で水不足が深刻化している。私が身近に水不足の危機を感じることはあまりなかったが、この機会が世界の水問題の現状を調べるきっかけとなった。現状を知れば知るほど、水は有限でありとても貴重な資源だと改めて気づいた。このままでは農作物への影響、生活環境の悪化、水資源を巡る紛争など、世界中で問題が多発してしまう。

水には、私が考える二つの価値以上にもっと多くの価値がある。しかし、せっかく様々な価値があつても、水不足の状態では必然的に「生活するための水」が最優先となり、どうしても生活に使う以外の水の価値が隠れてしまう。そのため、もつと技術を発展させ、水が持つ価値をすべて発揮できるほどの余裕が欲しい。水不足が解消し、世界中の人に生活のための水が行き渡った上で、エンターテインメントとしてやエネルギーとしてなど、様々なことに水が使えるようになったらとても素敵だと思った。そのため、どこかの誰かが、ではなく私たち一人一人が問題意識を持って水を大切にすべきだと強く感じた。

ボウルなどに水をためずに流水で洗顔をしていたり、食器洗いの時に水を止めていなかったり、お皿に汚れがついた状態で下膳したり：「水なら蛇口からすぐ出てくるから」「ちよつとだけなら大丈夫」という油断や危機感の低さから、たくさんの方が日々無駄になっている。水を大事にできている、と自信を持って言えない自覚があるからこそ、今から自分にできることを実践していきたいと思う。水があることは当たり前ではなく、水は「限りあるもの」、「とても大切なもの」であることを忘れずに過ごしていきたい。